

『都市の経済学 小テスト No.6』

号： 、氏名：

受験者数 69 人
 最高点 17 点
 最低点 5 点
 平均点 11.5 点
 標準偏差 2.65 点

【問題 1】適切な語句に丸をつけよ。【全て 1 点】

【問 1.1】「付け値地代」と「市場地代」は、(同一の、異なる、あいまいな)概念である。

【問 1.2】付け値地代は、都市の中心地 (CBD) に近くなるほど (高くなる、安くなる、変化しない)。土地面積は中心地から遠くなるほど (広くなる、狭くなる、変化しない)。

【問 1.3】同質な個人が存在する土地市場において、効用水準が上昇すると、消費される土地面積は (大きくなる、小さくなる、変わらない)。このとき、付け値地代は (高くなる、低くなる、代わらない)。ただし、合成財価格は変化しないものとする。

【問 1.4】同質な個人を仮定すると、引越しの起こらない均衡状態では、需要される土地は都市の中心地 (CBD) からの距離の違いによって、(無差別曲線、家賃補助曲線、予算制約線) が異なる。さらに、その距離が異なる地点では、各個人が消費する住宅サービスは (同じになり、異なる)。付け値地代は (同じになる、異なる)。

【問 2】ある地点 X では、地主は異なるタイプの消費者に同じ価格で土地を貸している。このとき、所得が高い個人を H さん、所得が低い個人を L さんとする。以下の問いで、適切な語句に丸をつけよ。

【問 2.1】このとき、H さんと L さんの付け値地代は (同じ、異なる、分からない)。

【問 2.2】このとき、それぞれの予算制約線は (同じ、異なる) ので、H さんの効用水準を L さんの効用水準と比べると、(同じである、高くなっている、低くなっている、分からない)。

上記のような状況で、H さんが消費している住宅サービスを $q^H(X)$ 、付け値地代を $R^H(X)$ とし、L さんの場合も同様に $q^L(X)$ 、 $R^L(X)$ とする。【問 2.3】このとき、 $q^H(X)$ は $q^L(X)$ と比べると (大きい、小さい、等しい)。【問 2.4】また、 $R^H(X)$ は $R^L(X)$ と比べると (大きい、小さい、等しい)。所得を Y 円/月、交通費単価 k 円/km、地代 R(X) 円/㎡、合成財価格 1 円/個とすると、Xkm 地点に立地する家計は、 $q(X)$ ㎡の土地サービスと Z 個の合成財を消費しているとする。

【問 2.5】この家計の予算制約式を導きなさい。また、式変形をして付け値地代を求めよ。

予算制約式： $Y = Z + R(x) \cdot q(x) + k \cdot x$ 付け値地代： $R(x) = (Y - k \cdot x - Z) / q(x)$

【問 2.6】地点 X では、同一だった H さんと L さんの付け値地代は、地点 X からほんの少しだけ移動すると減少することは授業で説明した。以下の問いに答えよ。選択問題には適切な語句に丸をつけること。

地点 X からほんの少しだけ移動した時の付け値地代の変化量を比べると、H さんの付け値の変化量は L さんと比べて(大きい、**小さい**、変わらない)(絶対値で評価すること)。

地点 X からほんの少しだけ移動した時の付け値地代を比べると、H さんの付け値地代は L さんと比べて(**大きい**、小さい、変わらない)。

あなたが、都市の中心地 (C B D) からみて、地点 X より遠い場所で土地を所有していた (地主だった) とすると、H さんと L さんのどちらにその土地を売却する (または賃貸する) か、答えよ。また、その根拠についても答えよ。

売却先 : (**H さん** , L さん) 適当だと考える人に丸

根 拠 : 高い価格で土地を購入 (または賃貸) してくれる人に売却 (または賃借) したほうが利益になるから

【問 2.9】選択問題には適切な語句に丸をつけること。空欄には適当な語句を埋めること。上記の結果、X 地点を境にして、中心地点から遠い地点では (**H さん**、L さん) の付け値地代が高くなる。このことから、異なるタイプの消費者が存在する場合には、それぞれの付け値地代のより高い方が (**市 場 地 代**) となる。

解答としては「市場地代」と書いてほしかったのですが、他の回答でも文章として成立するものは正解としています。